



日和山

新潟市立日和山小学校
学校便り
令和2年2月14日

感謝する心

校長 市村 吉之

2012年から2014年まで、NHKのEテレで「モタさんの“言葉”」という番組が放映されました。

モタさんとは、^{さいとう しげた}斎藤茂太さん（精神科医，随筆家）の愛称で，歌人の斎藤茂吉を父に，小説家の北杜夫を弟にもつ人です。この番組は，モタさんが生前，手帳に書き留めていた“いい言葉”をもとにした“ちょっといい話”を，イラストとナレーションで読み聞かせる形式の番組でした。5分というとても短い放映時間ですが，視聴した後に自然と元気や勇気がわいてくるような番組でした。そのモタさんが，こんな言葉を残しています。



絵本にもなった「モタさんの“言葉”」

「感謝する心は，人間社会のなかで心穏やかに生きる最高の発明品」

人は常に人とかかわりながら，多くの人の支えの中で生きています。大きなことはもちろんのこと，どんな些細なことにも感謝し，人・もの・ことに対して「ありがとう」と思う（言う）ことは，自分の心を温かく穏やかなものにしてくれます。モタさんの言葉は，感謝する心が人と人との穏やかなつながりを生み出し，それが，さらには楽しく豊かな暮らしにつながっていくことを示唆しているのではないのでしょうか。

早いもので令和2年も2月半ばとなり，今年度もいよいよ残り一月半となってきました。3月末までは，1～5年生は進級に向けて，6年生は進学に向けて最後のまとめと新年度への準備をする期間です。そんな中，来週からは，「六年生ありがとう週間」が始まり，21日（金）には，「六年生に感謝する会」があります。

きっと，この期間，いつも以上に感謝の心を表す言葉「ありがとう」があちらこちらで聞こえてくると思います。「ありがとう」の数だけ，温かく穏やかな心が増える。何かと慌ただしい年度末ですが，六年生に感謝する期間を通じて，子どもたちに穏やかな心がいっそう芽生え，期間終了後は，温かい雰囲気の中で腰をすえて学習や運動などに取り組んでいってほしいと願っています。

～校内書き初め展～

冬休み明けに各学年で「校内書き初め大会」が行われました。1・2年生は硬筆で、3年生以上は毛筆です。12月頃から各クラスで練習に取り組んだり、冬休みの宿題としても取り組んだりしました。

書き初め大会本番、3年生以上の教室では、どの子も今までに学んだ筆づかいや字の形を意識しながら、一文字一文字筆を進めていました。墨の香りをかぎながら、静かに心を落ち着けて字を書くのは本当によいものです。1、2年生の子どもたちも、姿勢よく、手本をよく見て丁寧に書いていました。

子どもたちが心を込めて書き上げた作品は、各階の掲示板に展示され、多くの友達や保護者の皆さんに見ていただきました。



～全校なわとび大会～

2月4日（火）に全校なわとび大会がありました。大会では、8の字跳びを縦割り班で協力して行います。大会当日まで、20分休みに合計6回の練習を重ねました。5・6年生が跳べない子の背中を優しく押してあげたり、跳ぶ順番を工夫したりして、回を重ねるごとに最高記録を伸ばしていきました。

大会当日は、縦割り班のみんなで協力して声を掛け合い、最高記録を目指してがんばりました。練習を通して、大なわの跳び方が上手になるだけでなく、気持ちを一つに合わせて、目標に向かう姿が見られました。一人ひとりが立派なピアサポーターとしてがんばりました。今年度の最高記録は「117回」でした。来年度は、さらなる回数の上を目指して頑張っていきます。

